

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 折尾西小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 教科に関する結果の概要（A:主として「知識」に関する問題 B:主として「活用」に関する問題）

① 学力調査結果及び分析

国語A	全国平均正答率を上回っている。	全国平均を毎年、上回っているものの、漢字の読み書きなど今年も基本的な内容の定着に課題がある。
国語B	全国平均正答率を上回っている。	全国との差が徐々に広がり、今年は特に大きかったことから、これまでの取組が評価できる。今後も自分の考えを具体的に書く指導に重点を置く。
算数A	全国平均正答率を上回っている。	全国平均より毎年、徐々に上回っているものの、昨年同様、計算など基本的な内容の定着に課題がある。
算数B	全国平均正答率を上回っている。	毎年、全国平均より上回っているものの、特に図形をかくなど表現する能力に課題がある。
理科	全国平均正答率を上回っている。	全国との差は、前回より一層広がったことから、これまでの取組が評価できる。今後も理科専科の担当を中心に指導に当たる。

② 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・ 自分の考えを発表する機会が与えられていると答えている児童は、年によって差がある。学習の進め方にばらつきがあると考えられる。全校で発表する機会を増やす授業を行っていく。
- ・ 話し合い活動は、全国平均を上回ったり下回ったりしている。こちらも学習の進め方にばらつきがあると考えられる。全学習の中で話し合い活動を多く取り入れた学習に取り組むようにする。
- ・ 年々、文章を書くことに抵抗感をもっている児童が減少はしているものの、まだ、4割強いる。一方、学力調査の結果から、書くことに関する問題の正答率は、今年も全国平均を上回っている。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書いたりする活動を位置付けるなど、書く活動を今後も授業に取り入れる必要がある。
- ・ 国語の授業の内容がよくわかると答えた児童が年々減少している傾向がある。これまでの授業のあり方を見直し、改善し、児童がわかる授業づくりに取り組む必要がある。

2 家庭生活習慣に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・ 1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、昨年以上に増加している。今年も昨年同様に家庭学習については、家庭学習チャレンジハンドブックを活用して時間の目安や、家庭学習の具体的な取り組み方をすべての学級で共通理解し、指導する必要がある。
- ・ 自分で計画して勉強している児童の割合は、昨年以上に増加している。また、授業の復習をしている児童の割合は、今年も、全国よりもかなり高い。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・ 学校のきまりを守ることやものごとをやり遂げてうれしかったことに関しては、全国より高く、9割以上の児童が当てはまると答えている。
- ・ テレビ等の接触時間は減っている状況であるが、4割強の児童が1日2時間以上見ている。
- ・ テレビゲーム等に関わる時間は、全国より低いですが、2割強の児童が1日に2時間以上、テレビゲーム等をしている実態がある。

3 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・ 全職員で問題を解く。(学テ・CRT) →課題の共有化
- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・ チャレンジタイム(掃除時間後の10分間)で全校一斉に実施(学年で統一内容)
 - ・ 担任外教師によるチャレンジタイムの補助(現行のまま)
 - ・ チャレンジタイムの取組内容計画表作成(学力向上部会・各学年)
 - ・ 国語、算数の過去問題、WEB問題、アシストシート等の用意
 - ・ 小中連携サポーター(学生ボランティア)…プリント整備、活動補助
- ◎ 過去問題、アシストシート、WEB問題の活用
 - ・ 単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
 - ・ アシストシートを宿題とし、朝自習で答え合わせ、解説、やり直しを行う。
 - ・ 過去問題等を冊子にして、「宿題プリント」とする。
- ◎ 「書く」ことの習慣化
 - ・ 1単位時間の学習の中に、考えて書く活動を必ず位置付けるようにする。
 - ・ 学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。

※連絡帳に3行程度の「ミニ日記」を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 自主学习ノートの活用
- 中学年以上週1回以上提出※ノートの評価し、よい内容のノートを他の児童へ紹介する。
 - ・ 家庭学習時間の設定
(学年×10分以上 例1年10分2年20分3年30分4年40分5年50分6年60分以上)
 - ・ 「家庭学習の約束」の作成・実施
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- 2学期と3学期末に提出※家庭学習について評価し、よい学習をしている児童を紹介する。
 - ※家庭学習マイスター賞への応募
 - ・ 冬休み、春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用
- ◎ 全国学力・学力状況調査の課題と取組等保護者への周知
 - 2学期期末個人懇談と学年末懇談会で課題や今後の取組について説明する。
 - ・ 学校便り、学校HP